諫早総合病院地域医療支援病院運営委員会

# 令和元年度第２回会議議事録

日　時：令和元年８月２２日（木）１４:００～
会　場：諫早総合病院　６階大会議室
書　記：総務企画課　髙橋　征史

○参加者　　別添資料のとおり（院外１１名・院内３名・事務局３名）

≪議　事≫

［１］紹介率・逆紹介率について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１－１０頁

平成３１年４月～令和元年６月統計の報告

紹介率は、前年より２～３％減少。

紹介患者数は、４月は前年より増加。５月、６月は減少している。

診療科では神経内科、泌尿器科、歯科口腔外科が増加傾向にある。消化器内科、循環器内科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科は減少。特に眼科紹介が減少している。

逆紹介率は年々高くなっている。患者数も前年同期と比較しても月２００～３５０件増加している。

診療科別では、特に眼科の逆紹介が大きく増加（４月５０件、５月２２０件、６月２０４件）

（長郷院長）

眼科は大学医局人事で常勤医師が大学へ引き上げる事となった。他の病院でも引き上げが行われている。来年４月には常勤医師が戻ることを期待している。

整形外科も手術が多く、手術が必要で無い患者の受入を制限しているので、開業医からの紹介が減少している。

（県央保健所　宗様）

眼科医師の引き上げはやむを得ないのでしょう。救急患者が多くなったため、紹介率が減少したのでしょう。

（長郷院長）

長崎医療センターの救急患者受入中止もあり、大村からの救急搬送が増加している。

県南から医療センター搬送だった患者の受入も増加していると思われるので、県南地域を含めて協議が必要。冬になると、もっと厳しい状態となる。

（医療政策課　伊藤様）

整形外科の医師数は。

（長郷院長）

現在３名体制。大学には増員をお願いしているが、大学も出せない状態。集約化が進

んでいる。開業される医師が増加していることも要因。待遇が良く、救急の診察が無い病院などに医師が集中している。

（薬剤師会　堀様）

県央地域の事業として、抗がん剤の副作用の電話でのフォローアップを行っている。プロトコルを使った調査。諫早総合病院では、さらに抗凝固剤まで広めて行う予定、稼働時期は未定。

救急搬送時の持参薬をわかりやすくするため、調剤情報の共有が出来るよう連携を検討している。

（医療政策課　伊藤様）

あじさいネットを使えるのか。

（薬剤師会　堀様）

あじさいネットに接続できることを前提に進めていく。

（元諫早市教育長　平野様）

医師の引き上げに対する根本的な解決策はあるのか。

（長郷院長）

根本的な解決策は難しい。勤務条件がいいところに流れるのは仕方ない。

（元諫早市教育長　平野様）

長崎県は人口に対する医師の数が多いと聞いたが。

（長郷院長）

離島もあり、必ずしも多いとは言えない。２０年後には、医師が余るという時代が来るかもしれないが。

［２］救急患者・外来患者について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１－１６頁

救急患者数（全体）は、前年度よりやや増加。

救急患者のうち、５月、６月の救急車搬送件数が大きく増加している。

（５月：前年度より＋６８件　６月：前年度より＋８４件）

診療科別では、内科、神経内科、外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科で増加。

呼吸器内科、耳鼻咽喉科が減少している。

（長郷院長）

医療センターの受入制限で５月から増加している。神経内科、脳神経外科も合わせて増加している。外科も緊急手術が増加し、当院の外科医師も疲弊している。大学には増員をお願いしている。手術が増えると麻酔科医師も増員が必要となる。

（県央保健所　宗様）

医療センターは病棟を閉鎖して再開のメドが立ってきた。

［３］共同利用（開放型病床利用等）について・・・・・・・・・・・・・・・１７頁

例年と大きな変化はなし。

（長郷院長）

ＭＲＩはまだ余裕があるので紹介をお願いしたい。医師会などに情報提供することを検討したい。

（医療政策課　伊藤様）

ＣＴ、ＭＲＩの共同利用の医療機関の数は。

（事務局）

次回会議に病院名でデータが出せるよう調査しておく。

［４］諫早市こども準夜診療センターについて・・・・・・・・・・・１８－１９頁

例年と大きな変化なし。

（諫早医師会　吉田様）

１０：３０までの連絡、１０：４５までの受付、この情報が伝わり切れてないことで小児科医師が困ることがある。

（薬剤師会　堀様）

周知ポスターはないのか。

（諫早医師会　山口様）

作成を検討している。

（県央保健所　宗様）

「＃８０００」で受診相談をしていただければ、コンビニ受診が減るのでは。

（長郷院長）

「＃８０００」に電話しても「諫早病院に受診を」との回答もあるようで、受診相談とはなっていない場合もある。小児科は親の対応が難しい、すぐに責任問題と出てくる。

（健康福祉センター　田中様）

ゴールデンウィーク１０連休、準夜の対応ありがとうございました。

（諫早医師会　吉田様）

年末年始に９連休があるが。

（長郷院長）

外来を開けることは医局の反対もある。病院全体を開けるとコストパフォーマンスが悪い。重症な患者は早めに入院させておく対応もありと考えている。

（歯科医師会　浦様）

紹介が増えあてにしている。医師の増員はあるのか。

（長郷院長）

来年度より常勤医師を１名増とするため、人選に入っている。問題となるのは、診療室の狭さ。インプラントも開始予定。島原病院にも歯科を開設と聞いたが。

（医療政策課　伊藤様）

要望があっている。増築で対応予定。

（長郷院長）
採算性は勤務する医師によってだいぶ変わる。
（諫早消防署　橋本様）
整形外科の受け入れ拒否があっている。対策を検討する必要がある。
（長郷院長）
軽傷の患者も診ない医師がいる。医師によって差がある。軽傷の患者は開業医やその他の病院での診療をお願いしたい。

［５］患者相談実績について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０－２１頁
相談件数は前年と大きな変化なし。
在宅療養後方支援病院登録状況について、新規開拓が必要。
（長郷院長）
在宅療養後方支援病院のメリットは、不在時などの対応が安心な点がある。
（医療政策課　伊藤様）
がん相談には就労相談もあるのか。
（事務局）
ハローワークとも協力して情報提供を行っている。来院していただき、就労相談ができるよう検討している。

［６］その他
（諫早市民　馬場　様）
眼科の医師引き上げはびっくりした。この病院には必要では。
（長郷院長）
住民の声として、大学にも伝えたい。週３日は、非常勤として診療を行う。手術が必要な患者の受入はできない。それ以外の新規の患者に関しては受入可能ではないかと思われる。ただし、時間が限られているので、受入制限が出てくるかもしれない。